

平成29年度北陸地区国立大学学術研究連携支援報告書

研究グループ名	北陸古海洋勉強会 (支援期間：平成29年度)			
大学名	所属		氏名	
金沢大学	理工研究域自然システム学系	教授 助教	長谷川 卓 ◎佐川 拓也	
富山大学	理工学研究部	准教授	○堀川 恵司	
注1. 各大学の研究グループ責任者の氏名には○印を、研究グループ代表者には◎印を付してください。 注2. 所属（その他の機関については職名も）については、平成30年3月末現在を記入してください。				
その他の機関 の構成員	機 関 名	所 属	職 名	氏 名
	産業技術総合研究所	地質情報研究 部門	主任研究員	板木 拓也
成果概要	<p>本研究グループではこれまで継続して合同セミナーを開催してきた。平成29年度は本支援を利用し、平成30年2月21日ー22日に金沢大学において2017年度北陸古海洋勉強会を開催した。本勉強会の目的は、各研究室で行われている研究内容について紹介し情報交換を行うこと、所属学生に発表経験や学外との交流機会を与えること、共同研究の可能性を模索すること、外部機関から講演者を招待して関連分野についての知識や最新の動向に関する情報を得ることである。特に今年度は、北陸地方において日本海研究の中心的役割を果たせるよう重要研究課題の模索と、最先端の分析技術を開発する学外の研究者を招聘し、古環境研究への応用可能性を議論することで新たな研究フェーズを探ることを主要な目的とした。</p> <p>勉強会には金沢大学から10名、富山大学から4名、外部から6名の計20名が参加した。3つのセッション（日本海古海洋セッション、手法開発セッション、最新成果報告セッション）を設け、各セッションで研究発表と総合討論を行った。日本海古海洋セッションでは、日本海古環境変動研究の第一人者である北海道大学名誉教授の大場忠道先生を招いて日本海古海洋研究のこれまでについてご紹介いただき、その後金沢大学、富山大学の学生と学外ゲストによる計6件の講演が行われた。手法開発セッションでは、過去の環境復元のために新規手法開発を進める講演をゲスト2名と富山大学の学生1名による3件の講演が行われた。最新成果報告セッションでは、金沢大学と富山大学の学生・ポスドクを中心に、今年度の研究成果について計7件の講演が行われた。いずれのセッションでも活発な議論が行われた。</p> <p>今年度の勉強会では学生の発表に対して学外ゲストから多くの建設的なアドバイスをいただいた。また、分析手法の応用を生かした共同研究案も提案され、当初の目的を十分に達成できた。今後も本勉強会を継続して開催することで、金沢・富山両大学の活発な研究交流の場としてゆきたい。</p>			
獲得した外部 資金				